



# 瀬戸小だより

ふれ合う 認め合う 共に学ぶ 笑顔あふれる瀬戸ヶ谷小学校

mail:y3setoga@edu.city.yokohama.jp ://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/setogaya/

学校だより 6月号  
令和5年5月31日  
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校  
校長 松永 淳子  
TEL 713-8336 FAX 713-9749

## 花の気持ちになるんです

副校長 井田 善之

「いつもこの時間に水をあげているんですか。」

ある晴れた朝、私が、正門前の花壇の花に水やりをしてくださっていた守る会(学援隊)の方にこう質問をしました。「いや。」

見事なまでに咲き誇る本校の花壇の花々。毎日のようにその花のお世話をしてくださっているお姿を見ての質問でしたが、意外にも否定の答えが返ってきました。しかし、その後こう続きました。

「花が、『水が飲みたい』と言った時にあげます。花の気持ちになるんです。そうすれば花が水を欲していることがわかります。」

花が感じていることに自身の五感を働かせ、その成長に優しく温かく向き合う守る会の方の言葉。学校教育の中で子どもたちをみていく視点としても、とても大切なもののように思いました。日々、子どものよさが花開くように、子どもが輝くように、子どもの思いがどこにあるのか、子どもの感じていること、見ていることに目と耳と心をしっかりと向けて関わられているだろうかと、改めて原点に戻り自問しました。

あるクラスの図工の時間。絵の具を使って皆楽しそうに思いを表していました。ふと、自分の絵をじっと見ている女の子に目が留まりました。どうするのかな・・・とその様子を見てみると、その子は、水をたくさん含んだ青色の絵の具を慎重に筆に染み込ませ、画用紙の上にぼたっと垂らしました。青色の絵の具はクレヨンの線にはじかれ、花の模様の一部になりました。その子はその様子を真剣な表情でしばらく見つめ、ふっと顔をあげると、なんともいえない満足げな嬉しそうな表情を浮かべました。

わずかな時間ですが、青色の模様の花ができるまでに、その子にたくさんの心の動きがあったのだらうと思いました。青い絵の具を選ぶとき、絵の具を筆に染み込ませるとき、絵の具が画用紙に落ちるとき・・・。わくわく、どきどきしながら、まるで旅をしているかのように自分で道を選び、一步一步味わいながらあゆみを進めたのでしょうか。たどり着いた花の模様はただの模様ではなく、その子にとって大きな意味や価値のあるものになったに違いありません。

各クラスの前や階段の踊り場に図画工作科で表現した作品が並んでいます。一つ一つの子どもの表現の中に、そのような子どもの営みがあると思うと、より尊く、価値あるものに見えてきます。「できた」「できない」といった結果だけに目を奪われることなく、子どもがその表現の過程で何を思い、考え、選択したのかということに目を向け、それをよきとして伝えながら、必要以上に手をかけることなく見守っていくことが、大人の大切な役割なのではないかと、子どもたちの個性あふれる作品を見ながら改めて思いました。子どもの本当に伝えたいことに気づき、共感できたとき、正門の前の花壇の花のように、子どもの目は輝き、明るい未来を創造する芽も育っていくのだと思います。

今、花壇にはゴデチアという花が元気いっぱい咲いています。ゴデチアの花言葉は「変わらぬ愛」だそうです。花が勢いよく水を吸い上げるように、日々の学びが子どもたちのものとなるよう、教職員一同、共感の姿勢を大切に、変わらぬ愛情をもって、よりよい環境づくりに努めてまいります。

今月もどうかご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

